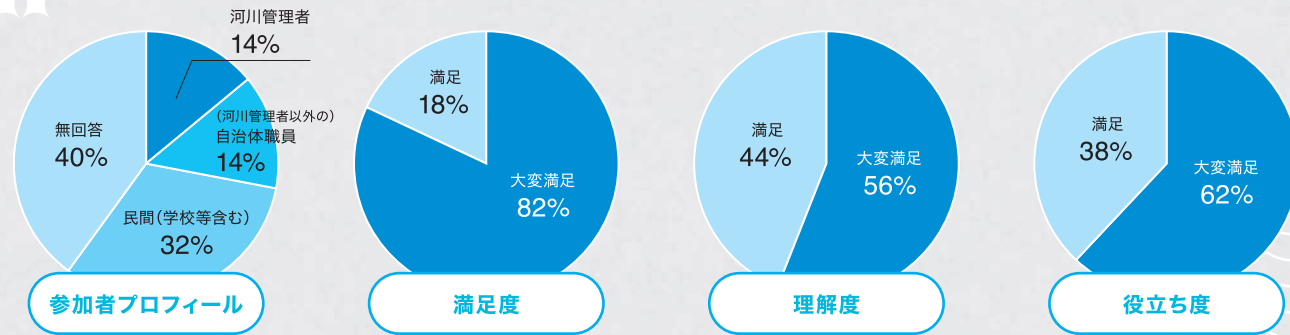


# 学んでつながって、うごきはじめて水辺の未来

## ≡ ミズベスクール3編 ≡



### 参加者のご意見

- グループセッションが多く設けられている点よかった (大阪府・民間)
- ミズベ井戸端会議で聞きたいことを聞けたし、ミズベリング会議で具体的に実践できたことがよかった (鳥取県)
- 多角的な視点で水辺活用のアイデアを学べた。人が集まるとこんなにアイデアが生まれるのか、とびっくりしました。 (大阪府・河川管理者)
- 色々な場所での事例を聞けるのが嬉しいです (奈良県・民間)
- まちづくりは話し合い(雑談)から始まるということを実感できた (和歌山県・河川管理者)
- 少人数グループで話し合えたことがよかったです (京都府・民間)
- 近畿地整以外でも開催してほしい (千葉県)
- 講師の方が熱心で、ミズベに限らず盛り上げていく、取り組んでいくことのコツを学べたような気がしました (和歌山県・自治体職員)
- いろんなアイデアが出て面白かった (河川管理者)
- 卒業論文の勉強で来ましたが勉強になりました (和歌山県・民間)



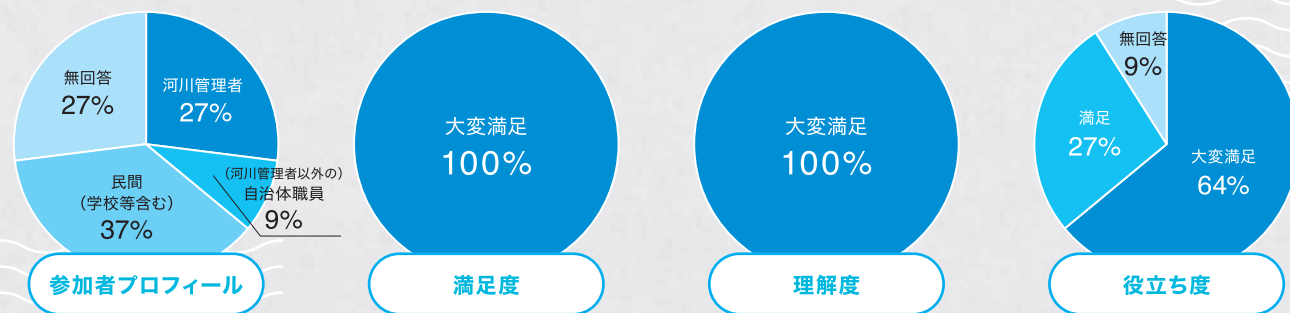
ミズベ  
スクール 3  
MIZUBE SCHOOL 3

# REPORT

2020.1.17

大阪合同庁舎 第1号館 第1別館 大会議室

## ≡ 現場見学会編 ≡



### 参加者のご意見

- 水辺を活用できている箇所やこれから活用しうる箇所を、実際に現場で見ること、より水辺活用のアイデアが生まれやすかったです (大阪府・河川管理者)
- 実際にクルーズをしながら、水辺の活用のいろんな面を見られて体感できたことがよかった (民間)
- 実際の水辺を見て、進んでいるところ、以前からあまり変化してなさそうなどところを見比べて、工夫など学ぶところが多かった (大阪府・河川管理者)
- 資料等で事例の概要を知っていても、実際に現場を見るのは相当理解度が上がり、大変勉強になりました (大阪府・民間)
- 制度(整備分)・活用(日本シティサップ協会)など多くの意見を聞くことができるのが面白い (大阪府)



ミズベリングに関するお問い合わせ > MAIL:kk-r-kasenmizube@milit.go.jp



「いいね!」を  
押して  
参加しよう!

「ミズベスクール」最新情報は公式facebookページをチェック!  
<https://www.facebook.com/mizubeschool/>

主催: 国土交通省 近畿地方整備局





水辺でわくわくすること、  
はじめよう。

新たな水辺の活用の可能性を切り開くための官民一体の協働プロジェクト、ミズベリング。水辺とまちが一体となった景観をつくり、にぎわいのムーブメントを起こすことで地域の活性化を目指します。

水辺はみんなに開かれ、思いをカタチにできる場所。

制度や事例を学び、わくわくしながら水辺のにぎわいづくりに思いを膨らませる一日、それがミズベスクールです。



## PROGRAM

- 10:00 開会挨拶
- 10:10 **第一部** ミズベリングを知ろう、ミズベリングオリエンテーション
  - ミズベリングプロジェクト
  - 水辺における官民連携
  - 河川空間のオープン化
  - かわまちづくり支援制度
- 11:25 **第二部** 事例に学ぼう、ミズベケーススタディ
  - 美濃加茂地区かわまちづくり
  - 竹芝地区のまちづくり
  - 長門湯本みらいプロジェクト
- 13:25 **第三部** 身近で語ろう、ミズベ井戸端会議
- 14:45 **第四部** 実践!ミズベリング会議
- 16:45 閉会挨拶、記念撮影
- 17:00 閉会





# ミズベスクール 3

## MIZUBE SCHOOL 3

### ミズベリングのイロハを教わり、水辺の利活用を考えつくす一日

ミズベリングに欠かせない制度や利活用のコツ、プロジェクトの立ち上げ方法といった水辺で活動したい人を支援する情報を専門家が体験談を交えながら紹介。さらに今年はミズベ井戸端会議、ミズベリング会議など参加型のプログラムが満載。市民、企業、行政が集まって意見を交わし、にぎわい創出の予感にわくわくする一日となりました。

開会

## 開会挨拶

災害に適切に対応するためにも、川を良く知ることが重要です。水辺に親しみ、川を良く理解することが、水の恩恵を受け安全を確保する上で大切です。その意味でミズベリングは重要な取り組みです。



国土交通省  
近畿地方整備局 河川部長  
豊口佳之

10:00 ~

第一部

## ミズベリングを知ろう、ミズベリングオリエンテーション

管理者、中間支援組織、民間が立場の違いを越えて連携し、話し合い、ビジョンを共有し、行動を起こすことが水辺のにぎわいづくりの第一歩。ミズベリングに欠かせない制度の活用法やプロジェクト推進のノウハウを専門家が一堂に会し、パネルディスカッション形式でやさしく紐解きました。



### 制度紹介01 ミズベリングプロジェクトについて

#### 自分から変わって 水辺に関わる人をつくり、動かす

大事なことは個人からの発信を河川管理者や行政に伝える、そして行政がどうサポートするかです。「チームをつくり、戦略を立て、社会実験をして、その成果を見ながら実装につなげていく」というのがミズベリングの手法。全国のミズベリング会議60~70箇所のうち半数がビジョンを立て、6割が社会実験をするなどして動き始めています。

ミズベリング事務局 滝澤恭平氏

### 制度紹介02 水辺における官民連携について

#### ただの打ち上げ花火に終わらないための 中間支援組織をつくる

市民も企業も行政も参加しながら行動を起こし、実装まで結びつけていくというプロセスの中で、行政と企業、行政と市民が1対1で向かい合うのではなく、それを支える中間支援組織の存在が大事。3者のビジョンを共有し合い、「形をつくる、仕組みをつくる、使いこなす」を継続的に支援していきます。

株式会社 E-DESIGN 忽那裕樹氏



### 制度紹介01 河川空間のオープン化について

#### 川を使いこなすには組織体、 協議体をつくって地域の合意を得ることが大切

川を使いこなすには、まず合意が確認できるような協議会(組織体)を持ち、地域の合意を得ることが最優先です。そして市町村が要望を河川管理者に出し、それを受けて協議会が地域の合意を確認し、連絡を取りながら進めます。防災や治水の安全面にも留意し、ルールや避難できる仕組みを考えておくことが不可欠です。

大阪府 都市整備部 河川室 河川環境課  
環境整備グループ総括主査 松原 信氏



### 制度紹介02 かわまちづくり支援制度について

#### 施設の維持管理には 地域の協力を得ることが必要

まちづくりを推進、活性化するためにはまちの歴史を知り、地域の方々から創意に富んだ知恵をいただくことが必要です。地域特性あふれる資源、文化、アイデアを生かして川とまちが一体になったかわまちづくりのために地域特性を生かした良好な関係を築き、多様な支援制度を有効に利用しましょう。

国土交通省 近畿地方整備局  
河川部 河川環境課 地域連携係長 中馬 遼

# TALK SESSION



### TALK THEME 1 それぞれの立場の違いから実感すること

岩本

ミズベリングは一つの立場だけを勉強しても推進できません。管理者、中間支援組織、民間がそれぞれの立場を理解し、どう乗り越えていくかが重要です。異なる立場から見てメリット・デメリットを感じていると思うことはありますか？

松原

民間が利益を得ているかどうかは分かりませんが、河川での事業を続けてくれているのは魅力があるからだと思います。

中馬

にぎわいが創出できれば民間は河川の維持管理をしてくれるのでありがたいです。

滝澤

民間事業者には伝えたいのは、新しい価値、サービスを生み出す面白さです。川は開かれた空間であり、新しい取り組みを見出すにはとても魅力的な場所だと知ってもらいたいです。

忽那

公共空間が規制緩和されて、水辺で何かやってみたいと思う民間企業も増えつつあります。地域を盛り上げるためには、目先の事業だけでなく、何のためにその事業をやるかという長期ビジョンを描いた上で取り組むことが重要です。

### TALK THEME 2 地域の合意形成を得るために必要な要素とは

岩本

規制緩和をしたとしても地域の合意が必要不可欠です。地域の人たちにどうやってまちづくりを伝え、合意を得たいのでしょうか。

中馬

民間事業者が入って住民との良好な関係を築いた上で合意を得ることです。まちづくりはそこで暮らす住民の方をいかに巻き込むのが大切で、協議会などに参入してもらい、一緒によりよいまちづくりを目指すことで取り組みが持続します。

忽那

ミズベリングというワードができてから、まちづくりが進めやすくなりました。ミズベリングの発信性を高め、全国の人に知ってもらい、盛り上げることが、合意形成の種をつくることにつながるからです。

滝澤

ミズベリングの一環で「水辺で乾杯」という活動をしています。肩書を外して楽しさやワクワク感でつながり、関係性を築く。そこからさらに柔軟なアイデアが生まれることもあると思います。

松原

行政も水辺を活用してもらいたいと思っています。地元の方に納得してもらえるまちづくりをするためにも、管理する側の悩み、活用する側の悩みがあると思うので、今日はお互いに意見をぶつけてほしいですね。



# 事例に学ぼう、ミズベケースタディ

## ヒントとアイデアの宝庫。知って、真

## 似て、できることから始めてみる



ミズベリングの先進事例にはたくさんのヒントが隠れています。

必ず明日への行動指針になるはず。

あなたのまちの魅力や社会資源は何ですか？

どんなアイデアがありますか？

それが見つかれば、あとは社会実験で成功体験を重ね、実現に道筋をつけるだけ。

勢いと情熱で突き進みましょう。

ビジョンを共有し、まずは小さく始めてみることに。

そこに成功のカギがあるかもしれません。

発表資料は近畿地方整備局WEBページ内で公開中！

URL

<https://www.kkr.mlit.go.jp/river/manabuasobu/mizuberings.html>

QRコード



1

岐阜県美濃加茂市

MIZUBERING Minokamo



### 「美濃加茂地区かわまちづくり」 3拠点の活性化で実現した 暮らしの中に川があるまちづくり



美濃加茂市のかわまちづくりは、地域資源である木曾川にスポットを当て、川への思いと暮らしを呼び起こす事業。市民協議会をつかって市民と議論を重ねる仕組みをつくり、意見を聞きながら2つの指定管理制度を通していきました。国の直轄工事として4年間にわたって木曾川沿いの遊歩道を整備し、運営者や地域の団体が「インスタ映え」をねらったお洒落なイベントを開催するなど、社会実験を繰り返しました。市民協議会で使う側の要望を丁寧に聞いたため、施工段階で設計を大きく変えるなどの苦労もありました。夜間でもBBQができるエリアを備えた「リバーポートパーク」、中山道会館、美濃太田駅に、にぎわいの3つの拠点をつってまちなかに回すことで活性化し、再びにぎわいを取り戻しました。



美濃加茂市  
建設水道部 土木課 建設係長  
**大塚雅之 氏**

2

東京都竹芝地区

MIZUBERING Takeshiba



### 「竹芝地区のまちづくり」 舟運の活性化と環境再生で 利便性と魅力向上を図る



東京湾周辺に位置する竹芝地区は海の玄関口で山手線に近接する交通の要所ですが、老朽化した建物や地震の影響でまちの活力が衰えました。東京五輪の盛り上がりも味方に、舟運の活性化、干潟を整備することでの学習の場づくりといったにぎわいの創出で利便性とさらなる魅力向上を図りたいとまちづくりに着手。開発コンセプトはエリアマネジメント活動で、2014年に準備室を立ち上げて官民連携のまちづくり協議会を設立、2017年に一般社団法人化し、仮設の棧橋をつかって社会実験を実施するなど、年1回の総会で年間の活動方針の承認を得て、まちの総意として動き、河川占有者となって港区の合意形成にも尽力しました。また2年前からプロジェクトマップに取り組みなど、面白いイベントを次々企画しています。



一般社団法人  
竹芝エリアマネジメント 事務局長  
**田中敦典 氏**

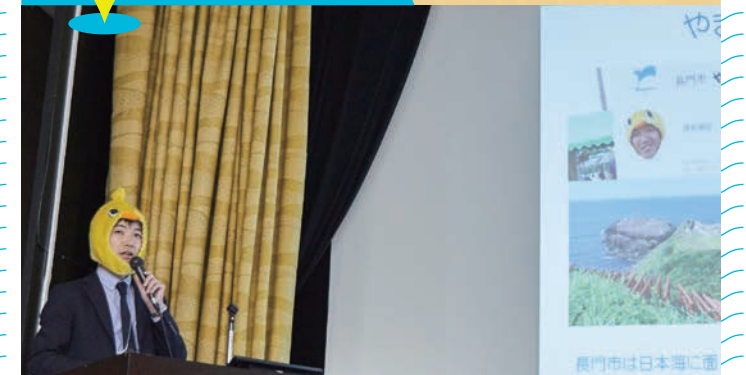


東日本旅客鉄道株式会社 東京支社事業部  
首都圏えきまち創造センター 竹芝・芝浦プロジェクトリーダー  
**花倉伸治 氏**

3

山口県長門市

MIZUBERING Nagato



### 「長門湯本みらいプロジェクト」 地域一丸となって実証実験を重ね 温泉街の再生を目指す



老舗旅館の閉館で遊休地が広がり、長門市で買い取ったことがプロジェクトにつながりました。県の観光の起爆剤にして盛り上げたいと、開発には星野リゾートの力を借りました。河川管理者と定期的に会議を持ち、ビジョンをどう実現するかを議論。川床の設置では技術的な部分や川の流りに支障のあるものは増水時にどう撤去するかなど運用ルールを2年間かけてつくりました。会社を立ち上げ、空き家を改装して小さなカフェの運営から始めましたが、今は3億円の借金をして温泉街の中心にある外湯を再建する大きなプロジェクトを担うまでになりました。しっかり管理運営をしていく民間の方々と一緒に実証実験から取り組み、民間主体のまちづくりを進めたことがポイント。まずは小さく始めてみることに。



長門市 やきとり課  
課長補佐  
**松岡裕史 氏**



# 身近で語ろう、ミズベ井戸端会議

## 少人数だからこそ語り合える、日頃の疑問や悩み解決で理解を深める

少人数のグループに分かれ、第一部、第二部の登壇者と意見交換をしました。登壇者を中心に「どうしたらいいの」と、ふだん感じていることをここぞとばかりに聞き出します。肩書きを外し、

前半と後半の各30分間でメンバーをチェンジし、「もっと知りたい」「詳しく聞きたい」立場を越えての「井戸端会議」はヒートアップし、時を忘れるほどの盛り上がりでした。

### TALK THEME 1

#### ミズベリングを仕事としてやる環境をつくるためのコツについて話そう / 岩本唯史 氏



#### 前半

**事業化しようとする、こねくり回されてビジョンが歪む**

やらないと始まらないが日常業務もあるので成功をどこへ持っていかを決めておく。委託と受託の関係ではなく、立場の違う人と協力して一緒にやるという姿勢で。同じゴールを目指し、コンセプトを共有。相手が大切にしていることを3番目まで確認しておく。

#### 後半

**意欲ある人材をいかに見つければよいか**

新事業を起こすための環境を整え、アンテナを張ってミズベリングに熱意ある人材を発掘する。既存団体の長以外の人を見つけ、意欲を引き出し巻き込んでいこう。自ら手を挙げ、「やる」意思を持つ人と一緒に、少しずつ成果を上げることで周知され伝播する。

### TALK THEME 2

#### ミズベリング人材とは? / 滝澤恭平 氏



#### 前半

**住民を巻き込みたいが、旗を振ってもついてこない**

地域住民と民間事業者が交流する仕組みをつくるのが最優先。自然発生的にまちづくり団体が生まれない場合、第三者的な中間組織をつくらせて行政が中間組織に発注し、中間組織はやったことを報告するという方法がよい。必ず民間を巻き込んで、他人事にならない努力を。

#### 後半

**人集め、人材のノウハウが知りたい**

地元の人に積極的に関わるキーマンになってもらう。「ここでこれをやりたい」という熱い思いを持っている人たちが集まってムーブメントを起こしてもらおう。ミズベリングという言葉看板などで周知して、関心を持っている人をうまく取り入れていけばよいのでは。

### TALK THEME 3

#### 水辺の魅力創出を可能にする官民協働の進め方 / 忽那裕樹 氏



#### 前半

**人事異動があるが熱意をどう持ち続けるか**

行政の担当者は異動してきたら、まず中間組織に話を聞きに行くというシステムにすればよい。行政から発信すると、「上からきた仕事だ」と必ずブリーズする。直接若い人と話をし、行政にどう上げるかを議論して「俺たちの意見です」とスタートさせると動きやすい。

#### 後半

**人が動く対価をどう生み出すか**

行政はお金をもらっても一般会計に入れて使えないので指定管理者にお金が行く仕組みをつくった。中間支援組織にプロパーを雇える仕組みがあればいい。中間支援組織はお金の財布をどのレベルでも実験的につくる必要がある、ちゃんと仕事をしていけば人を雇える。

### TALK THEME 4

#### 水辺のにぎわいと安全のバランス / 松原 信 氏



#### 前半

**大前提は安全。安全があってこそのにぎわい**

にぎわいは安全が担保されてこそ。利水と安全の両方を兼ね備える所に施設をつくるように心がけたい。川を使う人がなくても河川管理は不可欠。一番の責任者は河川管理者だが、役所が全部受けることは不可能。災害を想定して役割を決め、折半するの一本の答えだ。

#### 後半

**あらゆる方法を活用し危険の周知徹底を忘れずに**

事業者は川遊びの安全を把握し、避難所の契約や早めのイベント中止などの対応を。教育機関と連携して子どもたちに川の危険を周知したり、「急な深み」「ライフジャケット着用」などの看板の設置も。ホームページやSNSでの情報発信など、効果的な方法を探るべき。

### TALK THEME 5

#### かわまちづくり支援制度活用の秘訣 / 中島 遼



#### 前半

**地域のニーズを行政が支援する**

かわまちづくりは河川管理者が国であっても、市や町が入るのが条件。国と市が一緒になって進める。民間が入るとさらに活性化するので、理想は民間に手を挙げてもらうこと。利用者がいれば、地域のニーズに合わせたものをつくるために行政が支援していく流れになる。

#### 後半

**地元の人にメリットを与えることが課題**

今ある空間を使ってにぎわうのであれば、かわまちがなくとも大丈夫。協議会や審議会に住民を入れておけばOKをもらっていると考えるのは間違い。外から人が来るので地元住民から文句を言われる場合がある。住民に喜んでもらうと最終的には根づいていく。

### TALK THEME 6

#### 地域を巻き込んだ官民連携の関係のつくり方 / 大塚雅之 氏



#### 前半

**呼び込むには綺麗なトイレと電気と水道が不可欠**

民間と議論を重ねながらブラッシュアップして今の時代に合うものに変え、協議会の意見としてプログラムをつくる。子育て世代のママたちとイベントと一緒にすると情報がツイッターで拡散され、若い人たちが増え、その人たちにも協議会に入ってもらおうという作戦。

#### 後半

**次世代に響く新しい川との関わり**

昔の川で遊んだという人たちには子孫にも遊ばせたいという思いがあるが、若い人たちには「おしゃれ」「気持がいい」というノリで少し形を変えて提供する。若い人たちの新しい形の川との関わりが次世代に伝わっていく。人の心に響く何かを川で見つけた。

### TALK THEME 7

#### 水辺活用アイデアの実現に向けた障害の乗り越え方 / 松岡裕史 氏



#### 前半

**「本当にやりたいこと」ならやる気が出る**

地域に主体性が生まれず、やる気のないなら一旦ビジョンは置いておき、今できること、やりたいことは何かを探るべきでは。きっかけとして本当は何をやりたいかたのかが見つかる。一旦ペンディングという手もあるし、やらないという選択肢もある。

#### 後半

**行政職員の異動発令。民間の熱を保つには**

民間と行政で協定を結び、民間の役割と行政の役割を明文化して残すとよい。民間のパートナーと「こういうことをしよう」と約束した時の行政の役割を引き継ぐために。首長は選挙で選ばれるので交代しても、明文化によりしっかり仕組みが保たれ、担保される。

### TALK THEME 8

#### 水辺を活かした都心のまちづくり / 田中敦典 氏, 花倉伸治 氏



#### 前半

**憩える場所、行きたくするような水辺はどこ**

既成事実で攻めて行くのがいい。イベントの時だけ河岸を借りるという手もある。運河の景観は素敵でプロムナードが整備されていて綺麗でも、夜は真っ暗でつまらないなどの理由で人が来ない。単体ではなくエリアまるごとの取り組みでない、にぎわい創出や集客は難しい。

#### 後半

**安全ですか? が一番の問題**

干潟を作って子どもが水辺で遊ぶ環境を整備したいが、安全面のことがある。実態は管理者がいなくてオープンしない。状況を見つめながらやっていく。いきなりは怖い。管理には面倒くさがりやうのでそれをどこまでやるかということ、続けるかというところが問題だ。



# 実践！ミズベリング会議

14:45 ~

## 話せる環境をつくり、アイデアを出し、ストーリーにつなげ、行動する

各テーブルに分かれ「加古川」「淀川」「大和川」についてディスカッション。3つの川の特徴を活かした利活用と運用法をあれこれ語り合いました。職場間や行政とのカウンター越しの話では出てこない斬新な発想やアイデアがポンポン飛び出し、共感ポイントを探ったり、イメージを共有したり。実現できるかどうかは置いておき、今日学んだことが十分に活かされた会議でした。

### 題材紹介

#### 加古川

下流部の活用を考えたい。スポーツイベントではよく使われている。住民からまちの中心にある川だと思ってもらいたい。



姫路河川国道事務所 調査課 係長  
**川守田 智**

#### 淀川

万博開催時に十三と夢洲を結ぶ舟運事業を。十三と淀川上流域 大川で航路創設の可能性を検討中。十三駅の連絡線計画で乗降者数増加の可能性ある。



淀川河川事務所 総括地域防災調整官  
**石橋 博孝**

#### 大和川

柏原市内のまちづくりについて考えてもらいたい。水質が綺麗になっている。サイクルロードのハブとなっている。



大和川河川事務所 保全対策官  
**廣澤 元彦**

### アイデア出しの様子



些細なことでもアイデアのヒントになります。お互いに話せる限りのネタを持ち寄って情報を整理してみましょう。色んな立場からみて共感するポイントをひろげることが、地域の合意形成、総意形成につながるコツです。

ミズベリング事務局  
岩本唯史 氏

### アイデア発表

#### 加古川Aチーム

LOVE♡LOVEしないともったいない!!  
~カップルでもっと楽しめるカコちゃん♡~

謡曲「たかさごや〜」でお馴染みの「高砂」からヒントを得ました。カップルをターゲットに、広大な加古川河川敷で巨大お見合いイベントを実施。加古川の上流から下流を辿りつつ、カフェやB級グルメを楽しみ、加古川出身のM-1優勝者ミルクボーイの漫才を聞きつつ愛を育んでもらおうという作戦です。ゴールは高砂市でのガーデンウエディング!これで人口減少問題にも歯止めがかかり、地元・加古川「愛」がヒートアップ。



高砂の縁結びのゆかりがこんな風に絡められるのだなあと新鮮だった。レガッタもカップルで漕いだらいっそう恋が育まれるのかなあ。

#### 加古川Bチーム

いつでも!誰でも!run river 加古川

「年に1回開催される加古川マラソンのコースは42.195キロの道路が整備され、河川内には信号がない」、そこに着目! いつでも(24時間)、だれでも(キャリアのある人・ビギナー・走ることが得意でない人) マラソンをうたい、0キロ地点からフルマラソン、ハーフマラソン、クォーターマラソンと様々な使い方を提案。散歩や木陰で休むなどの利用法もあります。周辺店舗の協力を得てランナーには商品の値下げや500円ビールを。



マラソンコースを当たり前と捉えていたので「珍しい」という視点がなかった。JR加古川駅から徒歩5分ほどでアクセスでき、ライトアップすることで夜も使えるようにできると。もっと練習したい、走りたいという方を増やしたい。



# 実践！ミズベリング会議

14:45 ~

## 淀川Aチーム

### 交差点～人と自然、人と人が交差する場～

十三船着場予定地に夢を広げました。京都まで船で行けたらとか、2025年・大阪万博では活躍の場にとか。十三はほっておいても人が集まり、都会なのに淀川の自然がある魅力的な場所です。今まで活用されていなかった淀川を活用し、水上レストランやクルーズロックフェスなどを展開すれば人々が集まる交差点としていっそうにぎわうこと間違いなし。「十三プラスリバー（プラスに交差点の意味）」というネーミングはいかが。



川の中に目的をつくることでイベント会社が参入し、少し整備するだけで多くの人が集まってくることが想像できます。「交差点」というキーワードを使って呼び込むことができるのではないかと思います。イベント常設で地域の活性化が図れるのでは。



## 淀川Bチーム

### 十三・淀川を遊び倒す拠点に

淀川の最寄り駅である十三は、兵庫、大阪、京都からのアクセスに恵まれ、繁華街としてにぎわっています。淀川はその十三駅から近く、カヤクの練習場として人気の場所。サップやラフティングボートなどのマリンスポーツにも十分魅力的であることから、都市部のアウトドア拠点としての活用を存分に。船着場の機能に加えてカヤクを洗える場所などを併設し、フラットに遊ぶことを目指す船着場、「淀川ふらっと」はいかが。



十三は人が行き交う交差点の役割とポテンシャルがあるという認識です。「ふらっと」というイメージを大切に、それをふくらませて事業をしていけばよいのではないのでしょうか。

## 大和川Aチーム

### 自転車は地面の上を走るだけと誰が決めた

大和川のある柏原市はサイクリストの聖地でレンタサイクルが活況。それに目をつけ、距離や高低差だけでない新しいサイクリング、ミズベサイクリングを楽しみませんか。水流が少なく、水がきれいな大和川は右岸から左岸に向けて見晴らしが特にいい。そんな場所を自転車で走る爽快感！川をのぼり、くだる水遊びに最適ではないでしょうか。地元特産のワインとのコラボ、ワインフェスタも魅力満載です。



自転車イベントを予定しておりどんな内容にしようか考えたが、川の水の中を自転車で走るとは考えもつかなかった。素敵な発想だと感じました。

## 大和川Bチーム

### 「つなぐ」をキーワードにしたまちづくり

大和川は水質がきれいなので天然のプールとして十分楽しめ、草が生えている河原は子どもの遊ぶスペースに活用できます。大和川と石川の合流した地点に柏原市があるので、近隣の自治体とつないで（協力して）何か楽しいことをやっていくのではないのでしょうか。柏原市は山も近いので、山の自然と川の自然をつなぐことで化学反応を起こすことができるかと。川で山の産物を売り、山で川の産物を売るなど……。



泉州サイクルルートと南河内サイクリングラインを大和川でつなぐことができるが、一部、ミッシングリンクになっている。ちょうど堺市かわまちづくりで整備を行う予定としており、参考にしたいと思います。

### 「参考にする」ではなく、「やるという方向」で、ぜひ。

河川だけではなく、地域的につなぐという意義に感動しました。自発的に出た意見もそれぞれ素敵でした。アイデアを一つのストーリーでつなぐことでより人に伝わります。アイデア出しで終わるのでなく、写真を撮ってパンフレットに載せるという行動主義があれば本当に広まっていきます。



忽那裕樹氏

### 枠にとらわれず、立場を越えたアイデアを。

みんなが気持ちよく話せる空気や環境をつくり、全員が喋ることが大切。そして「共感が得られるところはどこか」とみんなで探り続けます。当事者は枠にとらわれ、立場を越えられませんが、自分がその立場にいることを気づかせてくれる機会でもあります。各地方へ持ち帰って実践してください。



岩本唯史氏

閉会

16:45 ~

## 閉会挨拶

河川管理者は施設、河川敷、道路を地域づくりに役立ててもらいたい、川を使ってもらいたいと考えています。また川の整備をする時には地域づくりに配慮しています。どう工夫したら貢献できるのかを学び、今後も水辺がより良くなることを一緒に考え、発信していきたいと思っています。



国土交通省  
近畿地方整備局  
河川部 広域水管理官  
佐久間 維美





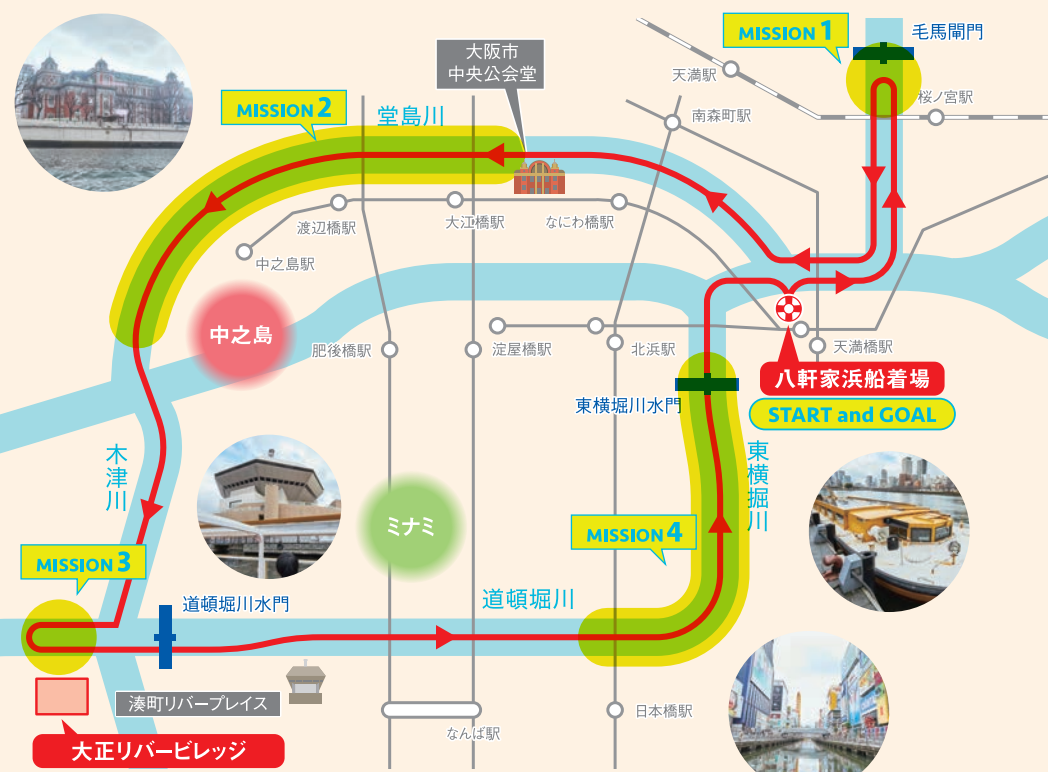
## ミズベスクール3、応用編！ ミズベリングクルーズ(現場見学会)

ミズベリングについてもっと知りたい！  
と、ミズベリストが集まったのは、後日開催した現場見学会。  
船で回遊しつつ大阪の水辺の利活用の現場をつぶさに観察しました。  
水際の視点からまちを眺めることで、  
普段は気付かない水辺の活かし方が見えてきます。



### PROGRAM

- 13:00 開会挨拶
- 13:05 本日の流れ説明/  
ミズベスクール3を振り返って
- MISSION1 施設見学**
- 13:35 「毛馬閘門」  
淀川河川事務所 毛馬出張所長 前田 竜治
- MISSION2 事例紹介1**
- 14:05 「日本シティサップ協会」  
日本シティサップ協会 奥谷 崇氏
- MISSION3 事例紹介2**
- 15:05 「大正リバービレッジ」  
近畿地方整備局 河川部 河川環境課 調査係長 井上 卓
- MISSION4 意見交換**
- 15:20 水辺のアイデア活用発表
- 16:00 記念撮影、閉会



START

MISSION 1

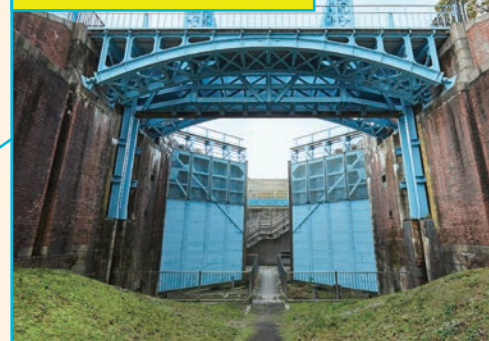
MISSION 2

MISSION 3

MISSION 4

GOAL

### MISSION 1



#### 施設見学 毛馬閘門

淀川河川事務所 毛馬出張所長 前田 竜治

水位差約1mの淀川と大川をつなぎ、船の行き来を可能にした毛馬閘門は明治のレンガ建築で迫力ある大きさと美しさが魅力。扉は500年前にレオナルド・ダ・ヴィンチが考案した観音開き。大川の水が増えすぎるとポンプで汲み上げ、淀川に排水して溢れない役目をする毛馬水機場は毎秒330立方メートルの日本一の排水能力を持ち、甲子園球場を約30分で満杯にするほど。



### MISSION 2

#### 事例紹介1 日本シティサップ協会

日本シティサップ協会 奥谷 崇氏

2009年大阪府・大阪市の協力で快適で安全な水辺での遊びを普及する活動としてスタート。船着場や雁木を活用して発着し、水上航行ルールを考慮して安全優先のために丸形のサポートを開発しました。「水上さんぽ」体験ツアーや冬場の「こたつサップ」などの人気企画を繰り出し、都心の水辺の魅力を伝えています。



水辺ですれ違ふ船や多くの人に手を振り合うのがマナーにきつい水辺づくりには欠かせません。

Q: 川を通るためには申請が必要ですか？

A: 川を通るためには必要ありませんが、水門を通航する際には事前に申請手続きが必要です。申請先は国土交通省や大阪市の建設局です。また、船着場を利用する場合にも管理者への手続きが必要となります。

Q: 大阪の川はきれいになりましたか？

A: 10年前はドブ川のイメージを持つ人が多かったように思いますが、このところは良いイメージを持つ人が増えたように感じます。確かに雨の後などは少し臭いますが、その目を避けたいし、濁ることを知ってもらいたいことも大切だと。行政の方には「サップに乗って浮かんでいるだけで大阪の川が綺麗に見える」と言われています(笑)

### MISSION 3



#### 事例紹介2 大正リバービレッジ

近畿地方整備局 河川部 河川環境課 調査係長 井上 卓

大正区尻無川の河川空間を生かし、商業施設「タグポート大正」、舟運事業、ホテルなどを展開。水辺に浮かぶホテルとイタリアレストランが目玉に。その安全性については想定外の気象状況にらみ、水が溢れる前提で50cmかさ上げ、かさ増した上に建築しています。USJまでの定期船も運航予定。今年1月にオープンしたばかりで、ミズベリングの先進事例として注目されるホットスポットです。

### MISSION 4



#### 水辺のアイデア活用発表

参加者に今日の見学で気付いたことを発表してもらいました。

- ・毛馬閘門のレンガは趣があるので、コスプレの撮影会に使えるのでは。
- ・カモや水生動物と触れ合える場所があればいい。
- ・一箇所でも橋の開く場所があるといい。
- ・川岸が殺風景で疎外感がある。
- ・速度が違う船などの乗り物と水空間を共有するのが楽しい。
- ・橋が低く、船の天井に迫ってくるので迫力があつた。
- ・せっかく橋をくぐるのだから、橋の裏側を見ると面白い。

#### 主催者のコメント

日頃とは違った川の水面近くからの視点からまちをみると、実に色々なアイデアがでて驚きました。日常生活でもこれくらい水辺を意識できる機会を増やすお手伝いできたらと思います。

